



# 生き生き柁城

やる気・根気・元気

No.444  
令和2年12月8日



いきいき柁城ブログ QR



## お手伝い・家事の分担のすすめ

校長 鶴 潔

私が小学生の頃は、お風呂を沸かすための薪割りや小さな兄弟の面倒を毎日みる友達が多くいました。私自身も風呂掃除や玄関掃除等を兄弟で交代でやった記憶があります。また、普段はほとんど話す機会がなかった父でしたが、一緒に洗車するときの笑顔は今もよく覚えています。しかし、最近では家電等の進化が著しく、子どものお手伝いの機会がずいぶん減ってきたように感じます。また、今の子どもは、習い事や塾などで時間がないということもよく聞きます。

では、子どもたちはお手伝いをしなくてもよいのでしょうか。答えはノーです。なぜ、お手伝いは必要なのか。それは次の理由によるものと考えます。

- 子どもが自立するためには、まずは生活の自立です。成長に合わせて子どもが自分でできる家事を増やさなければなりません。生活の自立ができなければ精神的な自立にも大きな影響があります。
- 家庭生活において家事の経験がなければ、家事の大変さが分からず、家事をしている家族への感謝の気持ちが育ちません。一緒に家事を行うことで家族の絆も深まります。
- 家事を行うことで、家族の中で自分は役立っているという自覚が芽生え、自己有用感や自己肯定感が育ち、自分に自信をもつようになります。
- 人のために仕事をする喜びに気づき、正しい職業観や勤労観が身に付きます。

もうすぐ冬休み入ります。冬休みは家族団らんの機会ではありますが、師走は大人にとって忙しい時期です。そこで、お子さんにお手伝いの経験を深めるよい時期ととれます。家族のために働くよさを存分に味わわせてください。

- 玄関の靴並べ ○靴磨き ○玄関の掃き掃除 ○洗濯物畳み ○洗濯物の取り込み
- 洗濯物干し ○洗濯 ○アイロンがけ ○食器運び ○食器洗い ○風呂掃除
- 庭掃除、草取り ○トイレ掃除 ○ゴミ出し ○掃除機かけ ○幼い兄弟の世話
- ペットの世話 ○洗車 ○おつかい ○朝ご飯作り 等

上のお手伝いの例は、私が担任時代に受け持った子どもたちから聞き取ったものです。私の想像を超えたお手伝いもありました。子どもの成長に合わせて無理のないお手伝いに挑戦させてください。

お手伝いを身に付けさせるためには、まずは仕方を優しく教えて、子どもだけで習慣化させるのか、親子で一緒に取り組むのかを子どもと考えましょう。

そして、できたときには子どもに感謝の気持ちを伝えましょう。できるようになるまでは、教える側の辛抱強さが問われます。

今年もありがとうございました。コロナ禍の中ではありますが、皆様よい年をお迎えください。

### 冬休みに特に心がけていただきたいこと

- ※ 「早寝・早起き・朝ごはん」で生活リズムを守りましょう。
- ※ スマホやゲームの使用時間は短く「午後9時オフ」。
- ※ 家庭学習とお手伝いにしっかりと取り組ませましょう。

